

## 月山山スキー報告

【山城】山形・月山

【日程】2016年4月9日~10日

【メンバー】菊池・他NBSCメンバー8名

【行程】8日新宿 23:20—夜行バス—9日 5:45 新潟古町—ICI 駐車場—月山姥沢ロッジ「やつなみ」—10:00—シール登高一姥が岳(1670m)—東ボール斜面滑走(標高差 150m)2~3本—尾根ルート—姥沢リフト乗り場—ツアールート(清水ルート)—志津五色沼(700m)—車宿— 累計登高標高差 650m 累計滑走標高差 1120m

10日

宿—姥沢—リフト—姥が岳—柴灯森(1700m)—1619m—1479m—1302m 下の平地で大休憩—南急斜面(標高差 150m—濁沢左岸—湯殿山スキー場トップ—スキー場ボトム滑走標高差 1170m



・月山での山スキーは5回目です。

30年ほど前にグレンデスキーを担いで5月20日ころ、山頂まで苦勞して登ったのが初めてです。その後、テレマークを始めて間もない17年前、細板・革靴で山頂東のメローな斜面でテレターン練習したり、ちば山に入会して間もなく、細板・革靴からやや幅

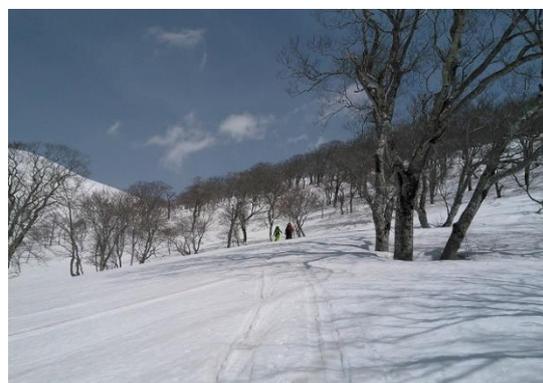
広の板とプラブーツに転向、GW の1日目を月山頂上(1979m) から大雪城を經由し清水行人小屋(1380m) までの東南斜面を標高差 600m の豪快なザラメ大滑走を楽しみ 2 日目は鳥海山に行ったのが 15 年ほど前で、今回はそれ以来の月山です。私の所属しているNBSC(新潟バックカントリー倶楽部)のこの時期の恒例行事であり、小生は前夜、夜行バスで新宿のおニューのバスターミナルを出発し早朝新潟着、ピックアップしてもらい月山に向かいました。これは途中のしゃりんの海岸線にある道の駅「あつみ」脇の岩場です。久しぶりの日本海の磯の香を楽しみました。



・ロッジに到着後、そそくさと支度をして出発です。オープン前日ですが、尾根をハイクアップする先行スキーヤーやボーダーが 20~30 名いますが、閑散とした静かなスタートです。



動いてないリフトに沿って左側のブナ林斜面をトラバース気味にシール登高です。天気は上々ですが風が強く、月山頂上の最大風速予想が 20m/s です。咆哮を繰り返す強風を我慢しながら姥が岳の山頂に向かいます。最大 15m/s ほどでしょうか。所々強風ですが姥が岳山頂付近はそれほどではありませんでした。



天気は上々ですが風が強く、月山頂上の最大風速予想が 20m/s です。咆哮を繰り返す強風を我慢しながら姥が岳の山頂に向かいます。最大 15m/s ほどでしょうか。所々強

風ですが姥が岳山頂付近はそれほどではありませんでした。

1日目は湯殿山東急斜面滑走を予定していましたが、積雪が少なくクラックが入っており、強風でもあり雪崩の危険など悪条件のため姥が岳の東ボール斜面で遊ぶこととしました。エントリーポイントに向かうところにもクラックがあります。

平坦なボトムまで標高差約 150m、思い思いのターン弧を描きながらのファースト滑走を楽しんだ。



お代わり自由とのこと、一人のみ 1 回でその他の 8 名は 2~3 回楽しんだ。小生は 2 回どまり、登り返しは姥が岳頂上方向に向かい、小さな雪庇の横からスタートした。雪質がよく一本目より滑りやすい。極上ザラメの急斜面を楽しんだ。後続のメンバーもお絵かき、これぞ月山大斜面滑走の醍醐味である。



1日目のハイクアップは累計 650m、ボール斜面の滑走を堪能しリフトの東側尾根を滑走、リフト乗り場に滑り込み満足のハイポーズの記念撮影をしました。まだ午後 2 時です。このまま宿で宴会にはまだ早いということで、志津の五色沼 (700m) までのツアールートを下ることとした。

ロープと赤テープでルートは明瞭である。緩

斜面が主体であるが、トラバースや快適滑走



の中斜面もあり終盤はこんな感じのブナ林  
凹凸ルート。フィナーレの五色沼までの累  
計滑走標高差は 1120m、満足のツアー一  
日であった。宿の方に迎えに来ていただき  
車で宿へ、まさに殿様ツアーであった。午  
後の陽光でみる湯殿山が素晴らしかった。  
宴会は盛り上がりすぎ、二日酔いの方も数  
名。小生もかなりのペースで飲んだが、前  
夜の夜行バスでほとんど寝てないため早々  
とベッドイン。翌朝は快適な目覚めであった。



・2日目のスタートです。スキー場オープン  
日のため、続々とリフト乗り場に向かっ  
ています。スノーキャットに乗車してリフト  
乗り場に行くこともできます。

姥が岳の東ボールを一本滑り、1700mの柴  
灯森から湯殿山スキー場ボトム(530m)ま  
での長いクラシックツアールートにスタート  
しました。風は弱くなっていますが、ガス  
ガスで視界不良。湯殿山スキー場のガイド



ツアーの団体さん 30名ほどが先行するルートを追隨しました。大休憩後、いつもの登  
山道ルートで行く渡渉地点はすでに雪割れして危険なため、1302mのピークから南の  
急斜面を滑走し、川床の左岸をに移ります。ガスっていますがこの斜面を下って左岸に  
行きます右岸の斜面をトラバースしながらの滑走が延々と続き、その後平坦地を暫く行く



と、漸く湯殿山スキー場のトップに出ます。終了した緩斜面ゲレンデをまったり滑り、最後の中斜面を気合を入れて最終滑走してフィニッシュです。標高差約 1200m の超ロングツアーかなり疲れしました。新潟からの新幹線では道の駅で購入したエビのから揚げとコアジの天ぷらを肴に、ビールと氷結、お弁当で余韻に浸りながらの車中でした。



---